

給水スポット設置次々

プラスチック容器などのごみ削減が世界的な課題となっている中、消費量が多いペットボトルを減らすという機運が盛り上がりつつある。このほど市民団体が呼び掛け、水道水が飲める給水場を増やす活動が始まった。

脱ペットボトル 新たな機運

東京都内で1、2日に開かれた環境関連のイベントで、会場の一角に2台の水色の給水器が設置された。空のマイボトルに給水器で水を入れた都内在住の女性(57)は「職場にマイボトルを持って行ってます。夏場は喉がよく渇く。ボトルが空になったとき、こういう給水器があると便利です」とほほ笑んだ。給水器は、5月に始まった給水スポットを増やす活動「Refill Japan(リフィル・ジャパン)」を主催する市民団体「水(すい)Do!ネットワーク(同台東区)」が置いた。清涼飲料水のペットボトルの年間出荷本数は236億本(2017年度、PETボトルリサイクル推進協議会調べ)。同ネットワークの瀬口亮子事務局長は「ペットボトルの8割以上がリサイクルされていますが、ボトルの製造、輸送、廃

市民団体呼び掛け マイボトル活用に弾み

「Refill Japan」が設置した仮設式の給水器。マイボトルに水を入れるタイプ(左)と飲むタイプ(右)東京都渋谷区の代々木公園で(左)と奈良市が駅前広場に設置した給水器。冷水が飲める(右)生駒市



棄リサイクルに必要な総エネルギー量を計算すると平均で容量の4分の1の石油に相当します」と地球温暖化対策としてもペットボトル削減の必要性を説く。しかし、現状では「マイボトルを持つ人は増えつつあるが、給水できるスポッ

トが十分にあるとは言えない(瀬口さん)。リフィル・ジャパンの活動で民間企業から借りた給水器を京都の祇園祭など各地の行楽イベントに設置して利用状況を調べるほか、自治体、交通機関、商業施設などにも給水器の導入を働き掛ける。給水場所を検索できるアプリも作成、3年以内にペットボトルの年間販売量の10%削減を目標にしている。地方でも給水スポットを増やす取り組みが始まっている。高松市のNPO法人アーキペラゴは2018年



から、客と一般の人が水や湯を補給できる飲食店などを募り、香川県内で現在約45店が参加している。奈良県生駒市は14年から水道水利用推進に取り組み、市内の主要な六つの公共施設に給水器を設置。自治会のイベントなどには無償で貸している。飲食店などに対し、客のマイボトルへの給水協力を呼び掛け、現在23店舗が参加。吉本直樹上下水道部課長補佐は「給水場を増やせばリサイクル費用の削減にもつながります」と話している。